スペイン語における Wh 島内部からの摘出移動について
(Agree 操作の再解釈)

Acerca de la extracción desde una isla-CU en español moderno
(la reinterpretación del proceso de *Agree*) *)

石岡　精三
Seizo ISHIOKA

0. はじめに

以下のスペイン語用例で示されるように，一定条件の下で，項 (Argument) を構成する疑問詞 Wh 要素は Semi-Question (SQ) Wh 島内部から移動する。その一方で，Indirect Question (IQ) Wh 島内部からの Wh 要素移動は排除される (2b)。[1)]

(1) a.¿Quién$_i$ no sabes [$_{SQ}$ [qué película]$_j$ dirigió t_i t_j en el cincuenta y uno]? (Torrego 1984: (68))
'Who do you know what movie directed in '51' ?'
b.*¿[Qué película]$_j$ no recuerdas [$_{SQ}$ quién$_i$ dirigió t_i t_j en el cincuenta y uno]? (ibid.: (69))
'What movie don't you remember who directed in '51' ?'

(2) a. ¿Quién$_i$ no recuerdas [$_{SQ}$ cuándo$_j$ llegó t_i t_j a este país?] (Suñer 1992: (40a))
'Who don't you remember when arrived in this country?'
b.*¿Quién$_i$ preguntaste [$_{IQ}$ (que) cuándo$_j$ llegó t_i t_j a este país?] (ibid.: (41a))
'Who did you ask when arrived in this country?'

Minimalist Program (Chomsky 2000) に基づく本稿において，上で確認されたスペイン語用例の相違を説明する論法が提示される。Wh 島の制約を説明する Chomsky (2000) の Agree 操作が再解釈される。

本稿は，以下のように構成される。第 1 節では，Wh 島の制約を説明する Chomsky (2000) の Agree 操作の概略とその問題点が示される。併せて，この Agree 操作の再解釈と精密化が試みられ，Multiple Agree による説明法が提示される。第 2 節において，この説明法がスペイン語用例に適用される。同時に，Accusative Resumptive Clitic による救済手段について考察する。第 3 節では，Dative Wh 要素が関与する用例に検討が加えられる。Dative Wh 要素の始発点とし，当該要素が基底生成される位置と異なる構造位置が想定される。第 4 節は結びを構成し，不定法 Wh 島からの摘出移動に若干の考察を加える。

1. Agree 操作とその再解釈 (Multiple Agree)

Chomsky (2000) は，素性照合を一致操作 (Agree) によって説明する分析を提案する。ゼロ範疇に付与された解釈不可能な素性 (探査要素 (Probe, P)) は，解釈可能な同じ素性をもつ目標要素 (Goal, G) によって照合されることにより削除される。同時に解釈不可能な素性を含む G がはじめて P を照合できると考えられている (P を照合した時点で，G が含む解釈不可能な素性も削除される)。G は，P の領域 (Domain of P, D(P)) 内にあり，局所要件 (Locality) を満たす必要がある。

(3) The assumptions for the probe-goal system (Chomsky 2000: p.122)

a. Matching is feature identity.

b. D(P) is the sister of P.

c. Locality reduces to "closest c-command."

Wh 疑問節 (4a) の主要部 (C) は，解釈不可能な素性 [Q] を付与される (当該素性が P となる)。Wh 要素は，解釈可能な素性 [Q] と解釈不可能な素性 [wh] を含む (解釈不可能な素性に下線を付す)。C の Sister 要素である TP が D(P) となる。この領域内にあり素性 [Q] をもつ Wh 要素 (*where*) が G を構成する。C と当該 Wh 要素の間で Agree 操作が適用され，C の解釈不可能な素性 [Q] が削除される (この段階で，Wh 要素の解釈不可能素性 [wh] も削除され，当該 Wh 要素は欠陥要素 (Defective) を構成する)。疑問節中の C は，その Spec 位置に Wh 句を選択すると想定される。この選択特性を満足するため，[Q] を含む Wh 要素 (*where*) 全体が Spec(C) へ移動する。これにより，(4b) が生成される。

(4) a. [CP C [TP John put the book where]]

[Q] [Q] [wh]

b. [CP wherei [C' C [TP John put the book ti]]]?

(5) Defective Intervention Constraint (DIC):

α β γ

Probe Goal (Defective) Goal

out

(6) a.*Whati did he wonder [wherej [John put ti tj]]?

b. [CP C [TP he wondered [CP wherei [C' C [TP John put what ti]]]]]

[Q] [Q] [wh] [Q] [Q] [wh]

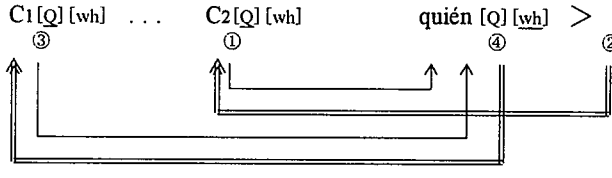
out out

Wh 島の制約を示す (6) の非文性は，(5) の欠陥要素介在規制 (Defective Intervention Constraint, DIC) によって説明される。Embedded CP 内において，Wh 要素 (*where*) は照合 (Checking) に参加し Spec(C) へ移動しているため，欠陥要素となりその照合能力を失う。一方，Wh 要素 (*what*) は Agree 操作に参加していないため，その素性 [wh] が保持され，照合能力をもっている。Root C の素性 [Q] に対してこのWh 要素 (*what*) のもつ素性[Q]を G とする派生は，DICによって排除される。前述のように，Embedded Spec(C) へ移動した欠陥 Wh (*where*) 要素は，その照合能力を失っている。結果として，Matrix C の素性 [Q] が照合されないことになる (同時に，Wh 要素 (*what*) の素性 [wh] も削除されない)。これにより，(6a) の非文性が説明される。この論法は，(1) と (2) のスペイン語用例すべてを不適格と予測する (問題点)。この問題は，Agree 操作それ自体を再解釈することにより打開される。

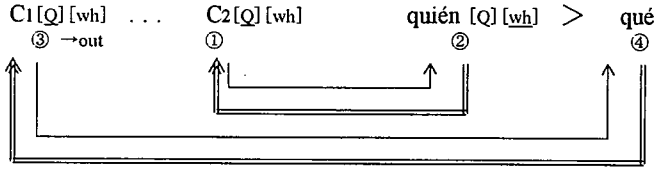
Chomsky (2000) の Agree 操作は，Wh 要素の Wh 島内部からの移動を排除する。スペイン語用例 (1a) の適格性に検討を加える。Chomsky (2000) と異なり，C が 解釈不可能な素性 [Q] と解釈可能な素性 [wh] を付与されると想定する (Non-Echo Questionにおいて)。この素性 [wh] が Trigger

となり，解釈不可能な素性 [wh] をもつ Wh 要素が Spec(C) へ移動することになる。素性 [Q] の Checking と 素性 [wh] の Checking が独立して適用されると考える (素性 [Q] の Checking (Agree) に参加する Wh 要素と素性 [wh] の Checking に参加する Wh 要素が異なる派生も存在する) (これを，分散照合 (Scattered Checking) と呼ぶ)。(1a) に対応する派生 (7a) において，P である C_2 の素性 [Q] は G である *quién* の素性 [Q] との Agree 操作によって照合・削除される (*quién* は，[*qué película*] よりも上位に生成される (前者が後者を C 統御する)) (①)。この Agree 操作の適用よって，*quién* に付与された素性 [wh] が削除されることはない。次いで，[*qué película*] がSpec(C_2) へ移動することにより，当該 Wh 要素の素性 [wh] が削除される (②)。C_1 Cycle において，C_1 の素性 [Q] は，C_2 に付与された素性 [Q] の場合と同様に，*quién* の素性 [Q] との Agree 操作によって照合・削除される (③) (これを，Multiple Agree と呼ぶ)。最後に，*quién* が Spec(C_1) へ移動し，当該 Wh要素の素性 [wh] が削除される (④)。

(7) a. C_1 [Q] [wh] . . . C_2 [Q] [wh] quién [Q] [wh] > qué película [Q] [wh]
③ ① ④ ②



b. C_1 [Q] [wh] . . . C_2 [Q] [wh] quién [Q] [wh] > qué película [Q] [wh]
③ →out ① ② ④



ここで，③ のAgree 操作が問題となる。② において Spec(C_2) へ移動した Wh 要素 (*qué película*) は，その素性 [wh] を削除されるため欠陥要素を構成する。つまり，DIC の適用により，③ の Agree 操作が排除される可能性がある。これは，不適格と判断されるスペイン語用例 (1b) の派生構造でも同様である。ここで，DICの適用範囲を画定する意味で，仮説 (8) を想定する。素性 [Q] に関する Agree と素性 [wh] に関する Checkingに 同一の Wh 要素が関与する派生，つまり通常の集中照合 (Concentrated Checking) が発動する場合に DIC が適用されると考える (8A)。つまり，分散照合 (それに随伴する Multiple Agree) が発動する場合に，DIC が適用されないと想定する。始発点がより上位に指定される Wh 要素が Multiple Agree に参加する (Semi-Question Wh 島内部において (8B))。[2)]

(8) Hypotheses:

A. The Defective Intervention Constraint (DIC) applies only to a derivation by dint of concentrated checking, but not to a derivation by scattered checking (including the resulting multiple Agree).

B. Spanish has a strategy in which a wh-phrase whose starting point c-commands that of the other wh-phrase participates in multiple Agree in the semi-question Wh-island.

2. Multiple Agree の適用例

上の (1)-(2) と 以下の (10) は，Wh 要素の出発点に関する以下の階層 (9) を想定することにより説明可能となる。Dative Wh 要素などを除き，Wh 要素の始発点とそれが基底生成された位置は一致する点に留意されたい (F2, ACl (Accusative Clitic) と DiCl (Dative-1 Clitic) については後述する)。

(9) Hierarchy of Wh-phrases
Spec(F2)＞Spec(ACl)＞Spec(D1Cl)＞*quién* (*who*) (nom)＞*cómo,cuándo, dónde* (*how, when,where*)＞*qué, qué+NP* (acc) (*whom*)

(10) a.*¿[Qué coche]i no sabes [SQ cuándoj repararon ti tj]? (Contreras 1994: (16))
'what car don't you know when they repaired?'
b.*¿[Qué libro]i no recuerdas [SQ dóndej compraste ti tj]?(ibid.: (29))
'what book don't you remember where you bought?'
c.*¿[Qué coche]i no sabes [SQ cómoj repararon ti tj]? (Contreras 1999: (73))
'what car don't you know how they repaired?'
d.*¿[Qué película]j no recuerdas [SQ quiéni dirigió ti tj en el cincuenta y uno]? (1b)
'What movie don't you remember who directed in '51' ?'

例えば (10a) において，Adjunct Wh 要素 (*cuándo*) が Accusative Wh 要素 (*qué libro*) よりも上位に生成される。よって，後者の Accusative Wh 要素が Multiple Agree に参加することはない。これにより，(10a) が DIC によって排除される (既に述べたように，Adjunct Wh 要素が Multiple Agree に参加することはない)。(1) において，主語 Wh 要素 (*quién*) は，Accusative Wh 要素 (*qué película*) よりも上位に生成される。つまり，主語 Wh 要素が Multiple Agree に参加する (1a) の派生が適格と予測される((1b) は，DIC によって排除される)。その一方で，Accusative Wh 要素が長距離移動する用例 (10a-d) は，当該 Wh 要素に対応する再述接語 (Resumptive Clitic) の随伴によって救済される (この救済事象を，Accusative Resumptive Clitic Strategy と呼ぶことにする)。これは，(11a-c) によって例証される。(12a-b) の適格性は，この Strategy が SQ 島だけでなく，Wh 島内部でも適用されることを物語る。

(11) a.¿[Qué libro]i no recuerdas [SQ dóndej **loi** había puesto Ana ti]? (Suñer 1991: (10b))
'What book don't you remember where Ana had put?'
b.¿[Qué coche]i no sabes [SQ cómoj **loi** repararon ti tj]? (Contreras 1999: (74))
'what car don't you know how they repaired?'
c.¿[Qué libro]i no sabes [SQ quiénj **loi** compró ti tj]? (Contreras 1992: (11b))
'What book don't you know who bought it?'

(12) a.¿[Qué libro]i me dijiste [IQ (que) quiénj **loi** había escrito ti tj]? (Suñer 1991: (10a))
'What book did you tell me (that) who had written it?'
b.¿[Cuántas novelas]i te dijeron [IQ (que) quiénj **lasi** había escrito ti tj]? (Suñer 1995: (57a))
'How many novels did they ask you (that) who had written them?'

この Accusative Resumptive Strategy は，以下のように解釈される。VP Shell よりも上位に，ACl (Accusative Clitic)の投射が生成される。Accusative NP が Spec(ACl) に移動した段階で，主要部 Cl に

Accusative Clitic が生成される。更に，Accusative Resumptive Clitic を随伴する Wh 要素の始発点として，Spec(ACl) が指定される (階層 (9) に留意されたい)。Accusative Wh 要素が Multiple Agree に参加可能となるため，(11) と (12) の用例はすべて適格と予測される。Suñer (1991: p.237) は，本稿の Accusative Resumptive Strategy が救済手段としての特徴をもつと言う。不適格と判断される (10a-d) のような派生を救う手段と想定される。つまり，本来適格と判断される派生に対して，この Saving Strategy が適用されることはないと考えられる。例えば，適格と判断される (1a) に対してこの Strategy が適用されることはない (この Strategy を適用した派生は，不適格と判断されることになる)。本稿の仮説群によれば，(13b) は DIC によって排除されることになる。それは，Spec(ACl) がその始発点として指定される Accusative Wh 要素 (*qué película*) が Multiple Agree に参加しないためである。

(13) a.¿Quién$_i$ no sabes [SQ [qué película]$_j$ dirigió t$_i$ t$_j$ en el cincuenta y uno]? (1a)
'Who do you know what movie directed in '51' ?'
b.*¿Quién$_i$ no sabes [SQ [qué película]$_j$ **lo**$_j$ dirigió t$_i$ t$_j$ en el cincuenta y uno]?

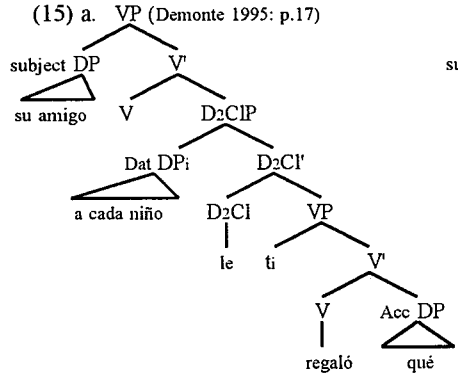
3. Dative Wh 要素が関与する派生

3.1. Bound Pronoun (Quantifier Binding)

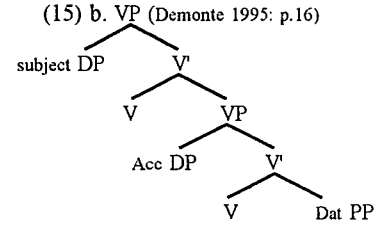
最初に，Dative (Wh) 要素と Accusative (Wh) 要素が基底生成される位置関係に検討を加える。代名詞 (Pronoun) が数量詞 (Quantifier) に束縛された変項 (Variable) と解釈されるためには，その代名詞は，関係する数量詞の C 統御領域内部に生起する必要がある (Quantifier Binding)。(14a-b) は，代名詞 (*su*) を含む主語要素と Dative である Quantifier (*a cada niño*) が共起する用例である。(14a) の非文性は，対応する Dative Clitic (*le*) を随伴するこの Dative Quantifier が主語要素 (に含まれる代名詞) を C 統御しないことを示す。Dative Quantifier (*a cada niño*) が主語要素 (*su amigo*) よりも下位の位置に生起することになる (主語要素は，それが基底生成された位置 (Upper V の Spec 位置) にとどまる)。つまり，対応する Clitic を随伴する Dative 要素は，Upper V よりも下位にあるゼロ範疇の Checking Domain (Spec 位置) に生起する。Demonte (1995) と共に，対応する Dative Clitic を随伴する VP-Shell の構造として (15a) を想定する' ((15b) は，Dative Clitic を伴わない場合の構造を示す)。(15a) における Dative DPi は，ti の位置から Spec(D$_2$Cl) へ移動する。この移動により可能となる DPi の形態素性と D$_2$Cl (*le*) との Checking により，DPi が Dative (*a* + DPi) として実現される。

(14) a.*¿Qué le regaló sui amigo [a cada niño]$_i$? (Ordóñez 1997: p.40, (24a))
'What did his friend buy for each boy?'
b.¿Qué le regaló [a cada niño]$_i$ sui amigo? (ibid.: p.42, (25a))
c.¿A quién le presentó (a) [cada niño]$_i$ sui madre? (ibid.: p.42, (25c))
'To whom did his mother introduce each boy?'

(15) a. VP (Demonte 1995: p.17)



(15) b. VP (Demonte 1995: p.16)



(14b) の適格性は，Dative Quantifier が主語要素を C 統御することを物語る。Dative Quantifier が VP-Shell 内部にとどまっていると考えることはできない。Ordóñez (1997) は，(14b) の Dative Quantifier (*a cada niño*) が Scrambling の適用を受け，定動詞が生起する機能範疇 (F_1 (=T)) の直ぐ下位に生成される F_2 の Spec 位置へ移動すると考える。(14c) の Accusative Quantifier に対しても，Scrambling による移動が想定される。本稿では，(14b) において，対応する Clitic を随伴する Dative Quantifier が Spec(D_1Cl) へ移動すると考える (Hierarchy (9))。Clitic を随伴しない場合の Dative Quantifier と Accusative Quantifier は，Spec(F_2) へ移動すると想定する。

(16) は，Accusative 要素と対応する Clitic を随伴しない Dative 要素が共起する用例である。(16a) から (16c) の判断は，構造 (15b) によって説明可能となる。Accusative 要素が Dative 要素を C 統御する。(16d-e) では，Quantifier に対して Scrambling が適用されている。つまり，Spec(F_2) へ移動した Quantifier が代名詞を C 統御する (対応する Clitic (*les*) を随伴する場合の (16e) では，Dative Quantifier が Spec(D_1Cl) へ移動，あるいは Spec(D_2Cl) に生起する)。

(16) a.*La profesora entregó sui dibujo [a cada niño]i. (Demonte 1995: (10a))
'The teacher gave his/her drawing to each child'
b. La profesora entregó [cada dibujo]i a sui autor. (ibid.: (10b))
'The teacher gave each drawing to its author'
c. Di [cada tarjeta]i a sui dueño. (Demonte 1994: p.452)
'I gave each card to its owner'
d. La profesora entregó [a cada niño]i sui dibujo (ibid.: p.453)
'The teacher gave his/her drawing to each child'
e. (Les) mostré [a todos mis amigos]i susi fotos. (Suñer 1991: (26a))]
'I showed their photos to all my friends'

(17) a. La secretaria le mandó [a cada empleado]i sui cheque. (Demonte 1995: (27b))
'The secretary sent his check to each worker'
b.*Le arreglé a sui dueño [cada coche]i. (ibid. : (29b))
'I fixed to each owner his car'
c. La profesora le entregó sui dibujo [a cada niño]i. (ibid.: p.451)

'The teacher gave his/her drawing to each child'

d.*Le di [cada tarjeta]i a sui dueño. (Demonte 1994: p.452)

'I gave each card to its owner'

Dative Clitic を随伴する用例 (17a) と (17b) の相違は，構造 (15a) から説明される。Dative 要素が Accusative 要素を C 統御する。(17c) の適格性は，束縛が LF で適用されると考えることにより説明される (これは，Demonte (1995: p.23) の説明法に類似する)。Scrambling の適用を受けて Spec(F2) へ移動した Accusative 要素 (*su dibujo*) が，LF において基底生成された位置 (Dative 要素よりも下位の位置) に再構築される。これにより，Dative Quantifier (*a cada niño*) が代名詞を C 統御することになる。(17d) は，問題を惹起する。(14c) と同様に，Accusative Quantifier が Scrambling の適用を受けて Spec(F2) へ移動すると考えてみよう。この前提の下で，(17d) は適格と予測されることになる (問題点)。ここで，Accusative Quantifier の Spec(F2) への Scrambling が排除される方言グループを想定する。このグループにおいて，上の (17d) は生成不能となる ((17c) のパターンが生成される)。[3)]

3.2. Dative Wh 要素の始発点

Accusative Wh の始発点として，それが基底生成された位置が指定される。Scrambling の適用によって移動した位置 (Spec(F2)) が始発点と指定されることはない。これは，主語と Accusative Wh 要素が共起する用例 (1a) と (1b) の相違によって例証される。それでは，(15a) と (15b) の構造をもつ Dative Wh 要素の終発点として指定される構造位置はどこか。

(18a) は，興味深い用例である。。Dative Wh 要素 (*a quién*) に対応する Clitic (*le*) の随伴に関係なく，(18a) は不適格と判断される。Clitic (*le*) が生起する派生において，Dative Wh 要素は Accusative Wh 要素よりも下位に生成される (構造 (15b))。当該 Clitic が生起する派生では，Dative Wh 要素が生成される位置 (Spec(D2Cl) は，Accusative Wh 要素が生成される位置を C 統御する (構造 (15a))。つまり，Dative Wh 要素の始発点として，それが生成される位置を指定することはできない。(18b) は，Dative Wh 要素の始発点が主語 Wh 要素のそれよりも上位であることを示す。(18c) は，Dative Wh 要素の始発点が Accusative Wh 要素のそれよりも上位であることを示す。つまり，Dative Wh 要素が Multiple Agree に参加することになる。大多数の話者において，このような Dative Wh 要素が Multiple Agree に参加する派生は，対応する Dative Clitic を随伴する (19a)。この効果は，Spec(D1Cl) が Dative Wh 要素の始発点として指定されると想定することにより得られる。(19b) は，Accusative Resumptive Strategy が適用された用例である。(19b) の適格性は，この Strategy に関与する Spec(ACl) が Dative Wh 要素の始発点 (Spec(D1Cl) よりも上位にあると想定することにより説明される (Hierarchy (9))。

(18) a.*¿Quéi dices que no te explicas [a quién]j (**lej**) ha comprado Juan tj ti? (Torrego 1984: (46b))

'What do you say that you don't understand for whom John has bought?'

b.¿[A quién]i dices que no te acuerdas quéj lei has dicho ti tj? (ibid. : (54a))

'To whom do you say that you don't remember what you have said?'

c.¿[A cuáles de ellos]i sabes quiénj no **lesi** dio tj ti una buena recomendación? (Suñer 1992: (40c))

'which of them do you know who didn't give them a good recommendation?'

(19) a.¿[A quién]i no sabías [qué diccionario]j *(**lei**) había devuelto Celia tj ti? (Suñer 1991: (6))

'To whom didn't you know what dictionary Celia had returned?'

b.¿[Qué libro]i no sabías [a quién]j sej *(**loi**) había regalado Bri tj ti el sábado? (ibid. : (10c))

'what book didn't you know to whom Bri had given (it to him) on Saturday?'

4. 結び (不定法 Wh 島内部からの移動)

これまで想定された本稿の仮説群は，(20b) のような不定法 Wh 島内部からの移動事象を説明できない (問題点)。項 (Argument) 要素は，SQ を構成する不定法 Wh 島内部から移動可能である。IQ である不定法 Wh 島内部からの移動は排除される (21a-b)。不定法 Wh 島内部において，対応する Clitic が PF で削除される Resumptive Clitic Strategy が発動すると考えることはできない (当該 Strategy は，IQ と SQ の双方に適用される)。

(20) a.¿[Qué coche]i no sabes [SQ cómo *(**loi**) repararon ti]? (Contreras 1999: (73); (74))

b.¿[Qué coche]i no sabes [SQ cómo reparar]? (ibid.: (71))

c. (?)¿[Qué coche]i no sabes [SQ cómo repararloi]? (Contreras 1992: (24b))

'what car don't you know how they fixed (it)/how to fix (it)'

(21) a..*¿Cuántos de estos libros te preguntas [IQ cuándo donar]? (Suñer 1992: (43a))

'How many of these books do you wonder when to donate?'

b.*¿Qué preguntaste [IQ si comer]? (Suñer 1992: (43b))

'What did you ask whether to eat?'

ここで，イタリア語の接続法 Wh 島内部からの移動事象との類似性に着目してみよう。石岡 (2002) でも確認されたように，一定の条件下で，D-Linked 要素として機能する項 (Argument) 疑問詞 Wh が [+Finite] Wh 島内部から移動する。(22a) において Wh 島外部へ移動する Wh 要素が D-Linked Wh 要素でないため，この派生は不適格と判断される (通常，単純疑問詞 Wh 要素が D-Linked Wh 要素の挙動を示すことはない)。長距離移動する要素が D-Linked Wh 要素 (*a quale dei tuoi figli*) である (22b) は適格と判断される。Wh 島が接続法で実現された場合，単純疑問詞 Wh 要素 (*chi*) が長距離移動する派生が適格と判断される (22c)。これは，単純疑問詞が接続法 Wh 島内部において D-Linked Wh として機能すると前提することにより説明される (接続法形態の V に二重下線を付す)。(22d) において長距離移動する疑問詞 Wh 要素 (*che diavolo*) は D-Linked Wh 要素としての解釈を拒む ((22d) が不適格と予測される)。[4]

(22) a.*[A chi]i non ti ricordi [SQ [quanti soldi]j hai dato tj ti]? (Rizzi 1982: p.70)

'To whom don't you remember how much money you gave?'

b. [A ***quale*** dei tuoi figli]i non ti ricordi [SQ [quanti soldi]j hai dato ti ti]? (ibid.)

'To which one of your sons don't you remember how much money you gave?'

c. Chii ti chiedi [[che cosa]j <u>abbia</u> dipinto ti tj]? (Manzini 1988: (34b))

'Who do you wonder what painted?'

d.*[Che diavolo]i non sai [chij abbia letto tj ti]? (Manzini 1992: p.101, ((14))

'What on earth do you know who read?'

既に検討したように，スペイン語の[+Finite] CP Wh 島内部において，D-Linked Wh の特殊性が関与することはない。イタリア語の接続法 Wh 島の場合と同様に，スペイン語の不定法 SQ Wh 島内部において項（Argument）Wh 要素が D-Linked Wh 要素として機能すると考えてみよう。これにより，(20b) と (21a-b) の相違が説明される。[5)]

註

*) 本稿は，日本ロマンス語学会第 40 回大会（東京外国語大学 2002 年 5月 19 日）における口頭発表の一部を拡張したものである。

1) 通常，Adjunct Wh 要素が Wh 島内部から移動することはない (ia)。IQ と SQ の類別が関与することがなく，Locative Adjunct (*dónde* "where") が Wh 島内部から移動する方言グループが確認される (ib-c) (このグループに関しては，稿を改める)。

(i) a.*¿Cuándoi no recuerdas quiénj llegó tj ti a este país? (Suñer 1992: (47a))

b.*¿Dóndei te preguntas quéj puso Juan tj ti? (Aoun 1986: p.126, (30))

c. ¿Dóndei te preguntas quéj compró Juan tj ti? (ibid.: (31))

2) 後述する Dative Wh 要素などを除き，Wh 要素の始発点とそれが基底生成される位置は一致する。

3) この前提が妥当する場合，Accusative Quantifier の Scrambling が許容される Ordóñez (1997) が属すグループでは，(17d) が適格と予測されることになる。(17d) が不適格と判断されるグループでは，(14c) もまた不適格と予測されることになる (これに関する論考は，稿を改める)。

Accusative Quantifier が代名詞要素を束縛しない派生，つまり，Accusative Quantifier が Wide Scope をもつ派生では，Spec(F2) への Scrambling が許容される (cf. Demonte 1995: p.20)。

Ordóñez (1997: p.68) が提示する以下の対比も興味深い。このグループでは，主語 DP の左方に生起する Dative DP に対応する Clitic が必須となる (ib)。Spec(D2Cl) 位置にある Dative 要素が，Spec(F2) でなく Spec(D1Cl) へ移動することになる。これが妥当する場合，この方言グループの用例としての (16d) が不適格と判断されることになる。

(i) a. Ésta es la asignatura que (lesi) enseñaba el profesor [a varios estudiantes]i.

b. Ésta es la asignatura que ?*(lesi) enseña [a varios alumnos]i el profesor.

'This is the subject which the teacher teaches/taught to some students/pupils'

4) Cinque (1995) は，*che diavolo* と同じグループとして *che cos' altro di AP* を挙げる。

(i) *Che cos'altro di interessante ti chiedevi [IQ chi avesse fatto]? (Cinque, 1995: (54a))

'What else interesting were you wondering who had done?'

5) (20c) と同様に，不定法 Wh 島内部において Accusative Resumptive Clitic Strategy が適用されると想定した場合，以下の (i) が適格と予測されることになる（未検証）。

(i) ¿[Cuántos de estos libros]i te preguntas [IQ cuándo donarlosi]?
'How many of these books do you wonder when to donate?'

参考文献

Chomsky, Noam (2000) "Minimalist Inquiries: The Framework," *Step by Step*, ed. by Roger Martin, David Michaels, and Juan Uriagereka, MIT Press, Cambridge, MA.

Cinque, Guglielmo (1995) "Long WH-Movement and Referentiality," *Current Issues in Comparative Grammar*, ed. by Robert Freidin, Kluwer, Dordrecht.

Contreras, Heles (1992) "On Resumptive Pronouns," *Current Studies in Spanish Linguistics*, ed. by Héctor Campos and Fernando Martínez-Gil, Georgetown University Press, Washington, D.C.

Contreras, Heles (1994) "Hacia una reformulación de la subyacencia," *Gramática del Español*, ed. by Violeta Demonte, El Colegio de México, México.

Contreras, Heles (1999) "Relaciones entre las construcciones interrogativas, exclamativas y relativas," *Gramática Descriptiva de la Lengua Española* vol. 2, ed. by Ignacio Bosque and Violeta Demonte, Real Academia Española, Madrid.

Demonte, Violeta (1994) "La ditransitividad en español: léxico y sintaxis," *Gramática del Español*, ed. by Violeta Demonte, El Colegio de México, México.

Demonte, Violeta (1995) "Dative Alternation in Spanish," *Probus* 7, 5-30.

Manzini, Maria Rita (1988) "Constituent Structure and Locality," *Constituent Structure*, ed. by Anna Cardinaletti, Guglielmo Cinque, and Giuliana Giusti, Foris, Dordrecht.

Manzini, Maria Rita (1992) *Locality: A Theory and Some of its Empirical Consequences*, MIT Press. MA.

Ordóñez, Francisco (1997) *Word Order and Clause Structure in Spanish and other Romance Languages*, Doctoral Dissertation, The City University of New York.

Rizzi, Luigi (1982) *Issues in Italian Syntax*, Foris, Dordrecht.

Suñer, Margarita (1991) "Two Properties of Clitics in Clitic-doubled Constructions," *Logical Structure and Linguistic Structure: Cross-Linguistic Perspectives*, ed. by C.-T. James Huang and Robert May, Kluwer, Dordrecht.

Suñer, Margarita (1992) "Indirect Questions and the Structure of CP: Some Consequences," *Current Studies in Spanish Linguistics*, ed. by Héctor Campos and Fernando Martínez-Gil, Georgetown University Press, Washington, D.C.

Suñer, Margarita (1995) "Negative Elements, Island Effects and Resumptive *no*," *The Linguistic Review* 12, 233-273.

Torrego, Esther (1984) "On Inversion in Spanish and Some of its Effects," *Linguistic Inquiry* 15, 103-129.

石岡精三 (2002)「イタリア語における Wh 島内部からの Wh 要素移動について」,「ロマンス語研究」35.